

## 連載講座:「国際標準化戦略としての今後の標準化人材育成」の開始によせて

画像電子学会 国際標準化教育研究会

WTO/TBT 協定(国家規格への国際規格の採用の義務付け)の合意以降, 国際規格(ISO, IEC, ITU による規格)が各国の規格として採用されることになり, それまで各国の仕様に迅速に対応する技術力を背景にして製品多様化戦略をとってきた多くの日本企業は, 戦略の変換を強いられることになった。

経団連は“戦略的な国際標準化の推進に関する提言”を 2004 年に公表し<sup>1)</sup>, その中で国際標準化の必要性を明らかにした。政府の知的財産戦略本部は 2005 年に“知的財産推進計画 2005”を発表し<sup>2)</sup>, 知的財産の活用をめざした国際標準化活動の強化を指摘すると共に, 標準化活動の人材育成に言及している。同じ頃, 文部科学省科学技術政策研究所は標準化教育のレポートを発表している<sup>3)</sup>。また, 国際的には, 2006 年に International Committee on Education about Standardization (ICES) Workshop が設立されて活動を開始した。

これらの動向に応じて画像電子学会は 2007 年の年次大会に国際標準化の教育/人材育成をテーマとする新企画セッションを設け<sup>4)</sup>, 多くの参加者を集めて積極的な議論を行った。この議論を発展させるため, 同学会は国際標準化教育研究会を 2007 年に設立して, 国際および国内の標準化活動を推進する人材育成に関する次のようなトピックを, 定例の研究会および年次大会の企画セッションにおいて扱ってきた。

- 標準化戦略とその推進
- 標準化活動を推進する人材育成課題
- 標準化活動の教材
- 標準化活動の教育方法
- 国際標準化関連課題
- ICES とのリエゾン

そこで扱われた講演の中から, “国際標準化戦略としての今後の標準化人材育成”に深く結びつく 7 件の課題をとりあげ, 約 1 年間の予定で学会誌に以下の表題(いずれも仮題)で連載を開始する。

- (1) 2012 年 3 月号 国際標準化および標準化人材育成の評価モデル
- (2) 2012 年 5 月号 ICES(International Committee for Education about Standardization)のこれまでの活動と今後の展開
- (3) 2012 年 7 月号 ITU における標準化人材育成のこれまでの活動と今後の展開
- (4) 2012 年 9 月号 The Entrepreneur and Standards
- (5) 2012 年 11 月号 大学での国際標準化プロフェッショナルコースのこれまでの活動と今後の展開
- (6) 2013 年 1 月号 戦略が問われる企業内標準化人材育成のための試み
- (7) 2013 年 3 月号 戦略的標準化人材育成に求められる国および組織の対応

これらの掲載順序については, 著者の都合等によって多少の変動があり得ることを予めお断りしておく。この連載をきっかけとして画像電子学会および関連する組織において国際標準化のための人材育成に関する議論が一層深まることを期待する。

(文責 大阪工業大学 小町 祐史)

### 参考文献

- 1) 戦略的な国際標準化の推進に関する提言, (社)日本経済団体連合会 (2004)。
- 2) 知的財産推進計画 2005, 知的財産戦略本部 (2005)。
- 3) 黒川利明: “国際標準を担う人材育成について”, 科学技術動向, No.51 (2005)。
- 4) 画像電子学会 2007 年度年次大会 新企画セッション, T.2 国際標準化の教育/人材育成 (2007)。